

農政新時代と「闘う土地改良」 第2ラウンド

北陸農政局地方参事官（各省調整） 垂井 良充



北陸農政局に赴任して1年が、地方参事官を拝命してから半年があつという間に経ちました。年齢を重ねると年月が経つのが早いことに、今更ながら驚かされます。

新潟県、関係市町村、県土連、改良区の皆様方には、日頃より農業農村整備事業等の推進に御尽力を賜っておりますことを厚く御礼申し上げます。

新潟の土地改良に触れる度に大事業の数々、先人の偉業に敬意を表する毎日の1年間でありました。

1. 農政新時代

生産者の高齢化や耕作放棄地の増大等課題が山積している中、農林水産業の活性化は待ったなしの課題であります。政権交代以降、産業政策と地域政策を車の両輪とし、農協改革や農地中間管理機構の創設などの農政改革を実施し、攻めの農林水産業への施策を推進してきたところであります。

今般、TPP大筋合意を受け、生産現場に残る懸念と不安を払拭し、新たな国際環境の下で、次世代を担う生産者が夢と希望を持って経営発展に取り組めるよう、これまで進めてきた農政改革に加え、昨年とりまとめた「総合的なTPP関連政策大綱」に基づき、

①産地パワーアップ事業など新たな政策手法により、②戦略的輸出体制の整備など生産者以外の者の知恵なども総動員し、新たな農政を展開いたします。

この新たな農政を講じていくことで、生産者の方々が、安全、安心で高品質な世界にも通用する農林水産物を生産しているとの自信を持ち、このような意識の転換が図られることで、新たな国際環境の下でも、夢と希望を持って経営発展に取り組んでもらえるようになると考えております。

「農政新時代」とは、このような農政の新たなステージを端的に称するものであります。北陸管内では昨年12月末より、「農政新時代キャラバン」として県、市町村、JA等生産者団体と意見交換会を実施してきました。

2. 「闘う土地改良」の結果

平成 28 年度当初予算、平成 27 年度補正予算については 2 月 2 日～3 日にかけて「農業農村の振興に関する意見交換会」として上越市と新潟市で開催したところです。

平成 22 年度に大幅減となった農業農村整備事業関係予算については、予算回復を求める、各方面からのご支援を賜り、8 月の平成 28 年度当初予算の概算要求において、対前年度比 1 千億円の増額要求を行い、鋭意財政当局と折衝を進めていたところ、10 月 5 日に TPP 協定交渉が大筋合意に至り、情勢が大きく変わりました。

結果としましては、28 年度当初予算（NN 関係予算）については対前年度比 127.9% の 4 千 588 億円の 1,000 億円の増額要求に対し、対前年度比 106.5%、3 千 820 億円の 232 億円の増額を確保しました。一方、補正予算については、TPP 関連対策 940 億円を含め 990 億円を確保することができました。

当初予算での回復が土地改良の至上命題であることはかわりませんが、UR 対策をめぐる厳しい批判や、厳しい財政状況から来る公共事業関係経費への強い削減圧力の中、当初と補正を合わせ 4 千 810 億円の 1,222 億円の増額を確保することができたのは、関係者が一斉に声を上げ、未だかつて経験のない組織力の発揮、確かな成果であったと思います。予算の回復については道半ばですが、そこは「闘う土地改良」第 2 ラウンドへ。

今回の 28 年度当初予算の概算決定及び 27 年度補正予算について、留意すべき点は、まずは、TPP 対策については、通常の補正予算とは性質が異なるということです。政府の「総合的な TPP 関連政策大綱」において、「既存の農林水産予算に支障を来さないよう政府全体で責任を持って毎年の予算編成過程で確保する」と書かれています。数年の継続が期待できるということです。

次に、当初予算における対前年度比 106.5%、232 億円の増額という数字が持つ意味についてです。今年度予算も昨年度予算も、60 数億円ずつの増額にとどまっていたものが、3 倍以上の増が確保できたということ。また、農林水産予算全体が今年度の 2 兆 3 千 90 億円から 2 兆 3 千 91 億円の 1 億円増、対前年度比 100.0% にとどまっている中、あるいは政府全体の公共事業関係経費が今年度の 5 兆 8 千 980 億円から 5 兆 9 千 6 億円の 26 億円増、対前年度比 100.0% にとどまっている状況を踏まえた中での意味です。今年度予算はとにかく NN 予算が突出しているということです。一方、公共事業全体が平成 21 年度比で 84.3% まで回復していることに比較すると未だ 64.1% という状況、一度削減された予算の復活はいかに厳しいかを痛感した次第です。

3. 「闘う土地改良」第 2 ラウンド

しかし、予算が増えても予算執行が重要です。最大限の効果が発揮されるよう事業を推進するとともに不用額等がないよう早期発注に心掛け、皆様方には引き続き御尽力願います。

平成 28 年度は土地改良にとっても、いろんな意味で新たなステージを切り開く年であります。「闘う土地改良」にとっては第 2 ラウンドの始まりでございます。最後に皆様と御家族の御健勝と御多幸を祈念申し上げます。